

# 説明資料

- 日本企業の新薬の内訳について
- 製薬企業の営業利益率について

中央社会保険医療協議会 薬価専門部会

2012年8月22日

専門委員  
参考人

榎宜寛治 加茂谷佳明  
岩佐孝 古賀典之

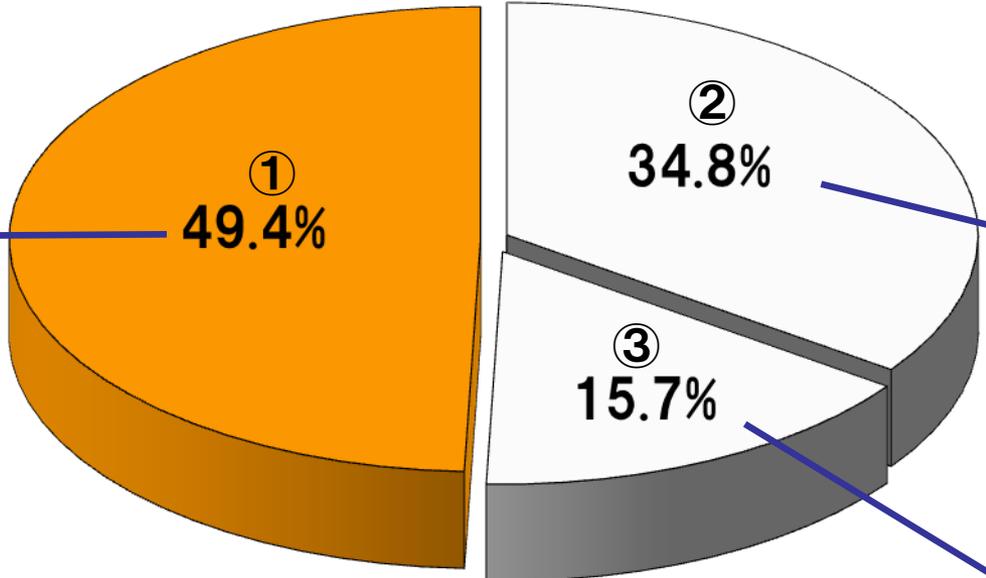
# 日本企業の新薬の内訳

- ・ 2008年4月以降の日本企業の新薬89品目のうち、日本企業が創製したものが約半数であった。
- ・ 外国企業からの導入品も、多くは日本企業が全ての国内臨床開発を行ったものであった。

## ① 日本企業創製品

## ②、③ 外国企業からの導入品

日本企業がシーズを見出し基礎研究、非臨床試験、臨床試験を行い実用化したもの



日本企業が臨床段階以降の国内開発を全て行ったもの  
(国内臨床開発未実施のものを導入したケースなど)

日本企業が一部の国内臨床開発を行ったものなど  
(臨床開発終了後に導入したケースも含む)

【参考】 年度別内訳(2012年度は5月収載分まで)

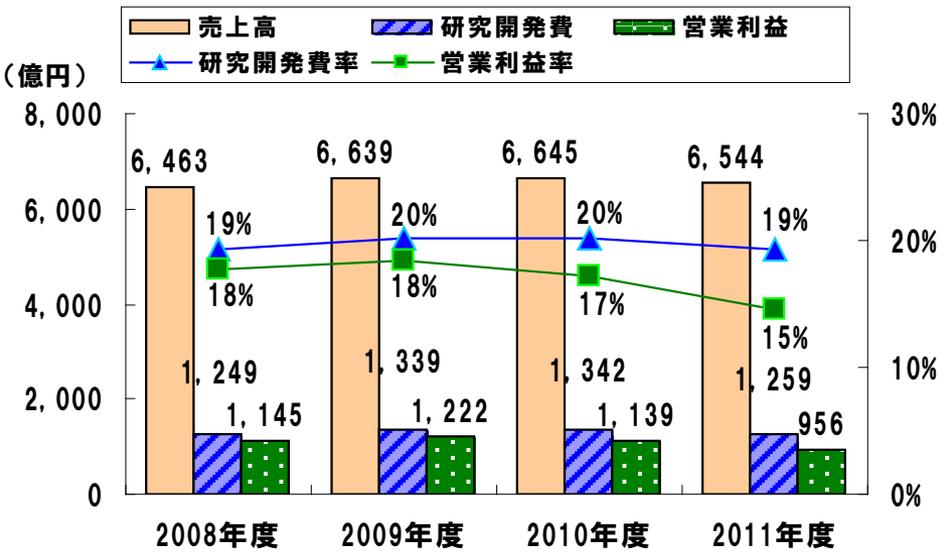
年度	2008	2009	2010	2011~12
①	58%	50%	39%	52%
②	17%	30%	46%	41%
③	25%	20%	14%	7%

(日薬連・薬価研調べ)

# 先発品企業(新薬メーカー)の営業利益率

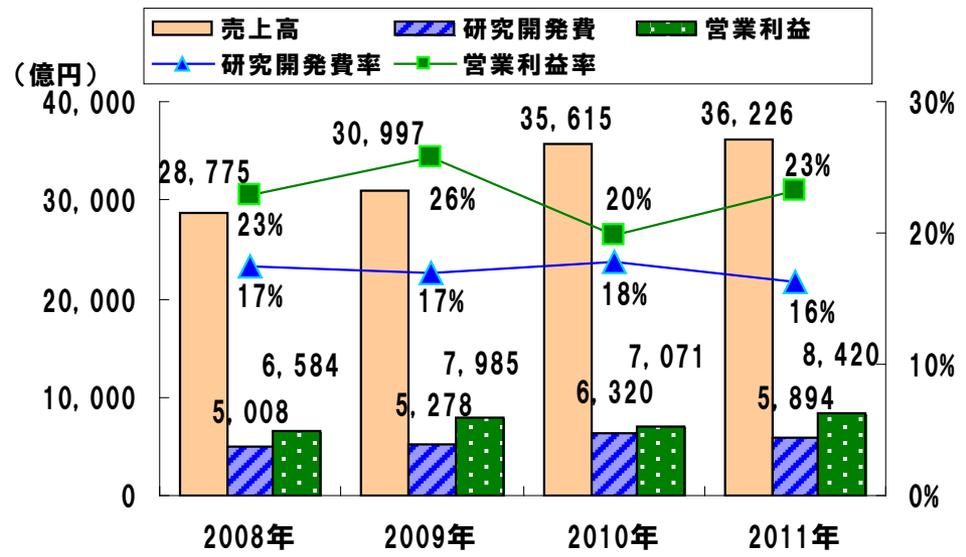
- 日本の先発品企業は、新薬創出に向けて、営業利益を上回る研究開発投資を続けている。これは他産業では見られないことである。
- 日本の先発品企業は、主力先発品の後発品上市などにより売上高が伸び悩む中、グローバル競争に生き残るため、営業利益を減じる結果になっても一定の研究開発投資を確保している。

日本の新薬メーカー8社の利益率等(連結、1社平均)



武田、アステラス、第一三共、エーザイ、田辺三菱、大日本住友、塩野義、小野薬品の有価証券報告書から、1社平均を算出

外資大手新薬メーカー8社の利益率等(連結、1社平均)

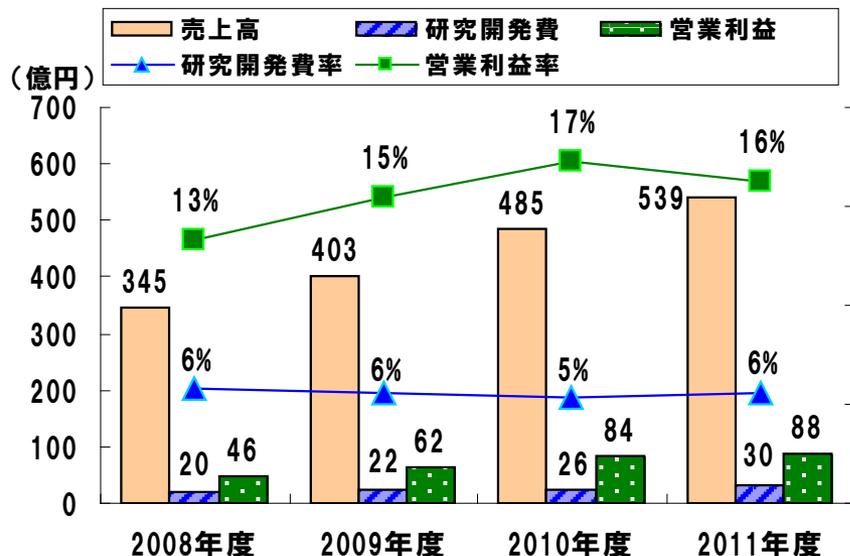


外資大手新薬メーカーのうち医薬品売上比率の高い、ファイザー、ノバルティス、サノフィ、メルク、グラクソ・スミスクライン、ロシュ、アストラゼネカ、イーライリリーの有価証券報告書、アニュアルレポートから、1社平均を算出  
 為替レート: 2011年9月~2012年8月平均報告省令レートによる  
 1ドル=79円、1ポンド=125円、1ユーロ=105円、1スイスフラン=87.7円

# 後発品企業の営業利益率

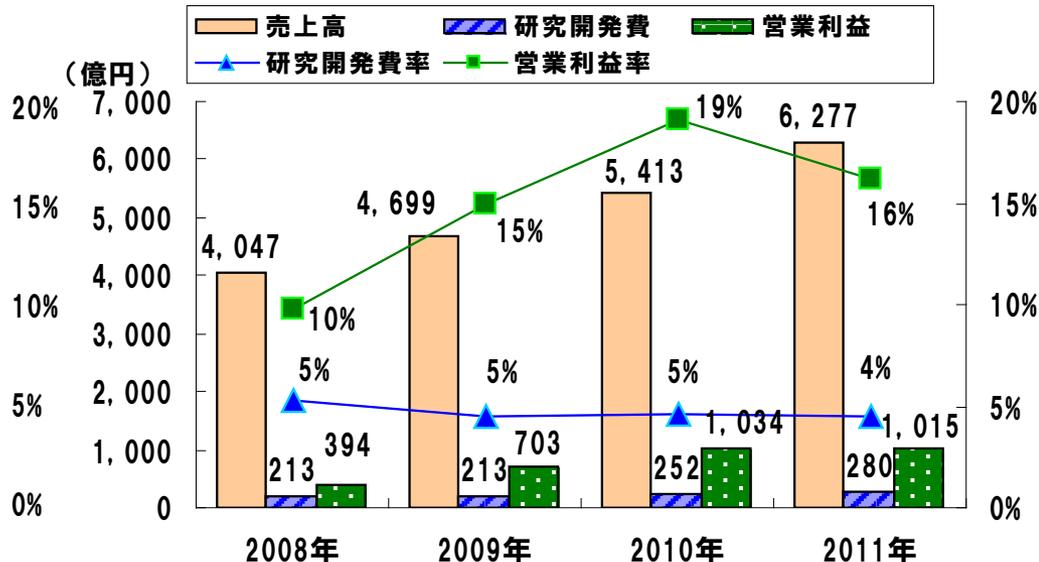
- 日本の後発品企業の売上高は、一連の後発品使用促進策等の効果もあって年々増加しており、それに伴い営業利益も増加してきた。
- 日本企業の営業利益率は、外資後発品企業の営業利益率と同程度である。

日本の後発品企業4社の利益率等(連結、1社平均)



- 日医工(各年度9月期)、沢井、東和、富士製薬(各年度11月期、単体)の有価証券報告書から、1社平均を算出
- 各社売上高には、後発品以外の売上高も含む

外資後発品企業4社の利益率等(連結、1社平均)



- 大手新薬企業の子会社及び事業部門を除く後発品主体企業である、テバ、ワトソン、マイラン、ペリゴ(各年6月期)のアンニュアルレポートから、1社平均を算出
- 各社売上高には、後発品以外の売上高も含む
- 為替レート: 2011年9月~2012年8月平均報告省令レートによる 1ドル=79円